

2017年3月期 第1四半期 決算概要

テルモ株式会社

常務執行役員 IR・広報室担当

北畠 一明

2016年8月4日

決算総括：為替の影響下、営業利益10%増達成

(億円)

	15年度Q1	16年度Q1	増減率	為替除く 増減率
売上高	1,287	1,245	-3%	+5%
粗利益	690 (53.7%)	698 (56.0%)	+1%	+11%
一般管理費	417 (32.5%)	403 (32.3%)	-3%	+6%
研究開発費	79 (6.1%)	81 (6.5%)	+3%	+10%
営業利益	194 (15.1%)	214 (17.2%)	+10%	+22%
(のれん等償却除く)	245 (19.1%)	259 (20.8%)	+6%	+17%
経常利益	206 (16.0%)	151 (12.1%)	-27%	
純利益	145 (11.3%)	101 (8.1%)	-30%	

期中平均レート	USD	121円	108円
	EUR	134円	122円

- 売上高：為替除くベースでは、日本・海外ともプラス伸長、特にカテーテルが牽引
- 営業利益：カテーテルの売上拡大とTCVS品質システム改善コスト減少により、二桁増益
- 経常利益：前年同期の為替差益（18億）に対し、今年度は差損（55億）
- 純利益：営業外の為替の影響を除くと、4%増益

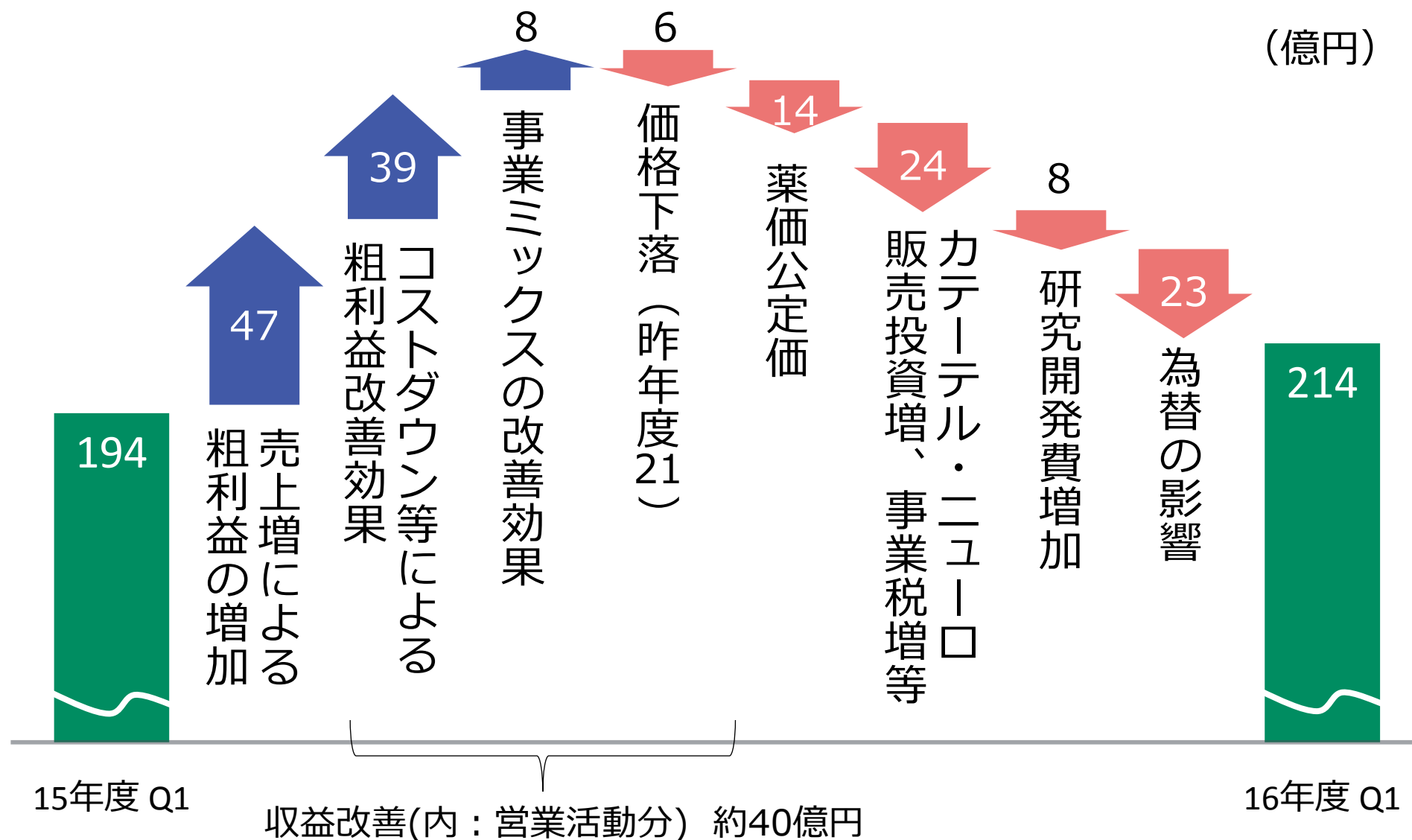
営業外・特損益・法人税

(億円)

	15年度Q1	16年度Q1	
営業外損益	11	-62	為替 15年度 +18 16年度 -55
経常利益	206	151	前同比 -27%
特別損益	+0	-0	
税前利益	206	151	前同比 -27%
法人税等合計 法人税等負担率	61 30%	50 33%	15年度Q1 過年度調整による税負担率低下
純利益	145	101	前同比 -30%

営業利益増減分析

(億円)



営業活動による収益改善

■ 心臓血管 アルチマスターによる収益拡大 +15億円

- ノボリからのシフトによる価格アップ
- 欧州：高価格市場への集中投下

■ 心臓血管 アクセスによる収益拡大 +9億円

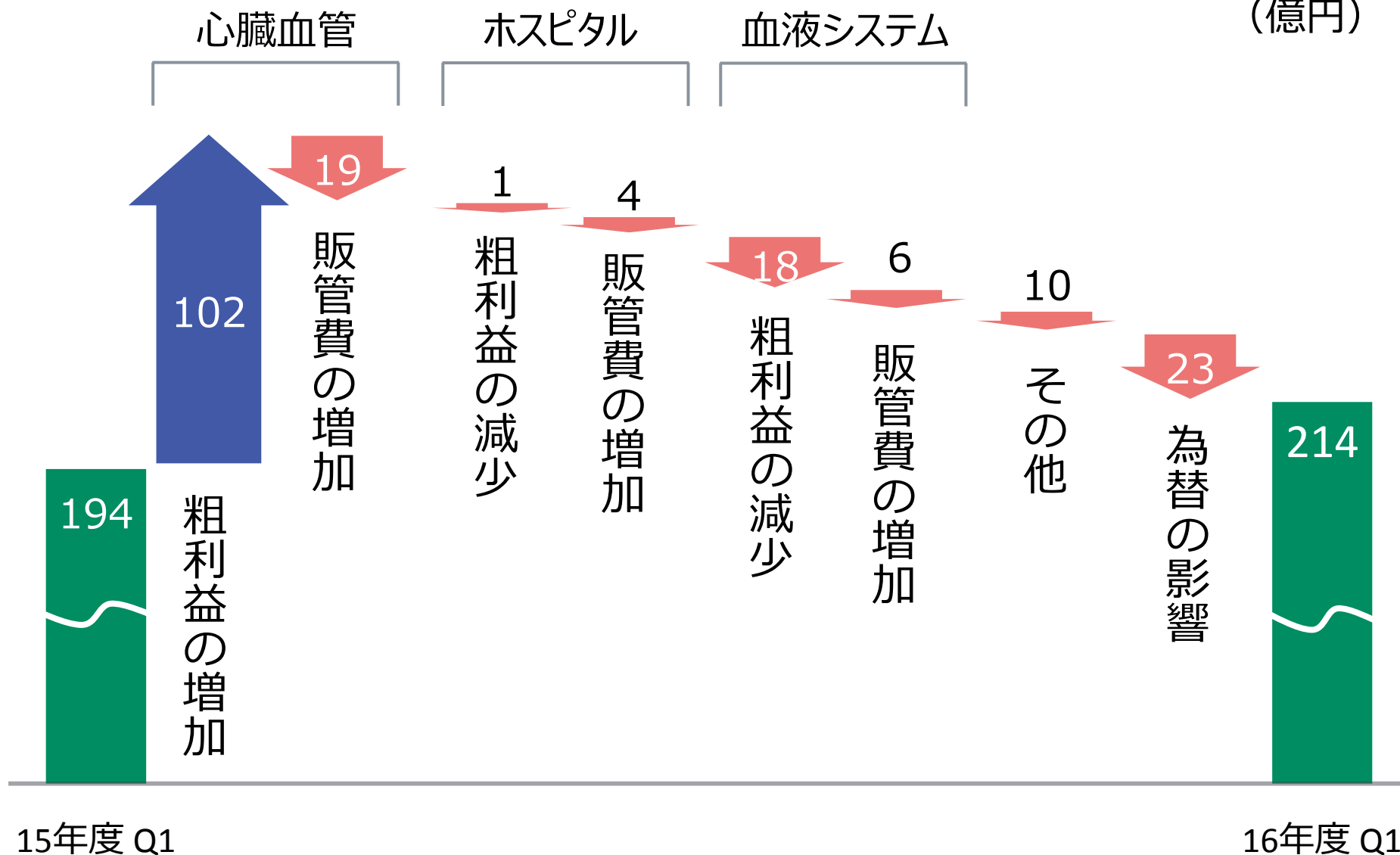
- 米州：TRI用アクセス製品へのシフト
- 欧州：収益性の高いアクセス分野への注力

■ ホスピタル 収益性重視の運営 +4億円

- アジア・中南米：低収益製品（シリンジ等）の値上
- 日本・アジア：高付加価値品（輸液システム等）へシフト

営業利益増減分析

(億円)

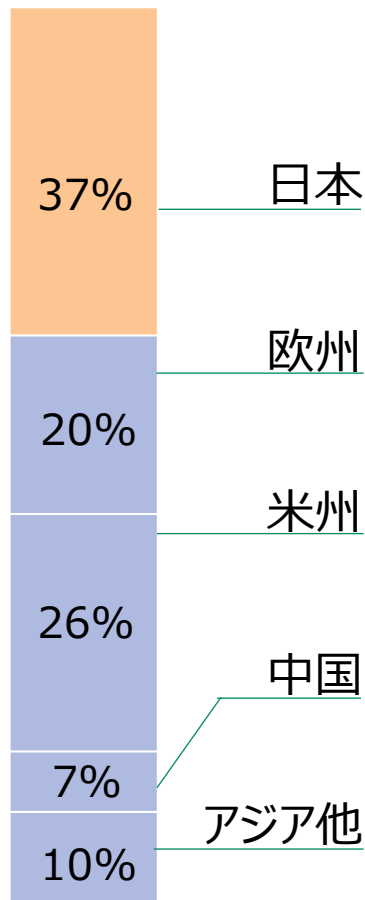


地域別売上高

16年度Q1
15年度Q1

売上高

100% = 1,245億円



売上額前年比較

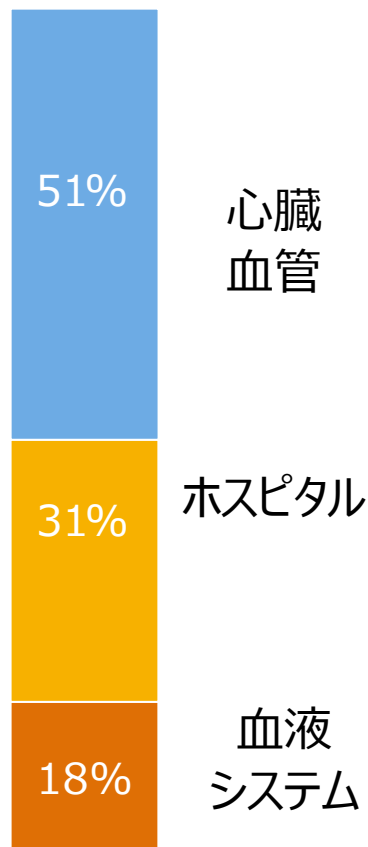
金額(億円)	伸び率(%)	コメント
() 内は為替影響除く		
455 440	3%	薬価公定価改定のマイナス影響受けるも、カテーテルやニューロが牽引
247 259	-4% (7%)	カテーテルやニューロを中心に心臓血管が二桁伸長。ホスピタルは低収益事業の縮小
329 359	-8% (5%)	TRI等アクセスデバイスが牽引し心臓血管が二桁伸長を継続。血液は新価格の適用
84 90	-6% (10%)	代理店網見直しでカバー率向上、カテーテルを中心に心臓血管が二桁伸長
130 140	-7% (7%)	心臓血管、ホスピタルともに好調維持

カンパニー別売上高

16年度Q1
15年度Q1

売上高

100% = 1,245億円



売上額前年比較

金額(億円)	伸び率(%)	コメント
() 内は為替影響除く		
637 632	1% (12%)	グローバルで、コロナリー治療デバイスとアクセスデバイスが牽引。日本は、公定価改定の影響を跳ね返し、二桁伸長
384 395	-3% (0%)	欧州・中南米は低収益事業縮小 アジアは好調維持 日本は輸液システム(ポンプやライン)が伸長
224 260	-14% (-3%)	米国を中心とした血液センター向け製品の 新価格適用

心臓血管カンパニー：公定価改定、為替の影響受けながらも、二桁増益

(億円)

	15年度Q1	16年度Q1	増減率	主なトピック	金額
() 内は為替影響除く					
売上高	632	637	1% (12%)	為替のマイナス影響	- 69
				日本：公定価改定の影響を受けるも、 コロナリー治療デバイス拡大	+ 15
				海外：グローバルで、コロナリー治療デバイス およびアクセスデバイスが二桁伸長	+ 59
事業利益 (率)	141 (22%)	195 (31%)	38% (60%)	高収益なコロナリー治療デバイスやアクセスデバイスへの シフトに加え、国内工場中心に継続的な原価改善	
				米TCVSの品質システム改善コストの減少	

ホスピタル:薬価改定や低収益事業縮小で売上減少も、収益性維持

					(億円)
	15年度Q1	16年度Q1	増減率	主なトピック	金額
売上高	395	384	-3% (0%)	() 内は為替影響除く	
				為替のマイナス影響	- 12
				海外：欧州・中南米は低収益事業縮小	- 4
				アジアは留置針などが牽引し好調	+4
				日本：輸液システム(ポンプやライン)が伸長	+ 5
				薬価改定、造影剤販売譲渡の影響	- 6
事業利益(率)	56 (14%)	52 (14%)	-7% (-6%)	在庫評価差や、金利低下による年金コスト増があるものの、事業利益率は緩やかに改善基調	

血液システム：海外・新価格適用や為替のマイナス影響を受け減収減益

(億円)

	15年度Q1	16年度Q1	増減率	主なトピック	金額
売上高	260	224	-14% (-3%)	為替のマイナス影響	- 28
				北米を中心とする血液センター向け製品の 新価格適用のマイナス影響	- 6
事業利益 (率)	54 (21%)	27 (12%)	-50% (-42%)	上記要因による粗利益の減少に加え、 ベトナム新工場の立上げ費用やR&D投資増	

() 内は為替影響除く

主なトピックス

全社

- 史上最低金利で、300億円の社債発行（4月）
- 英バスケテック、英国女王賞(イノベーション賞)を受賞（5月）
- 伊勢志摩サミットに「ハートシート」を出展（5月）
- 新・脳動脈瘤塞栓デバイスの米Sequent Medical社買収を発表（6月）

事業

- 再生医療等製品「ハートシート」国内発売（5月）
- TCVS社、米FDAによる販売制限が全面解除（6月）
- 国内初スプレー式癒着防止材「アドスプレー」国内承認（6月）

16年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域	ローンチ
心臓	DES (Ultimaster)	◎ ★	仏	済み
	DES (Ultimaster) 4.0mm品種追加	◎ ★	日	
イメージング	IVUS	◎ ★	日	
ペリフェラル	PTAバルーン (膝下, RX/OTW)		日・米・欧	日米:済み
	PTAバルーン (膝上・下両用,RX/OTW)		日・米・欧	日米:済み
	PTAバルーン (膝上, RX/OTW)		日・米・欧	済み
脳	プロテクションデバイス		欧	
オンコロジー	放射線塞栓ビーズ (Quirem)	★	欧	

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高

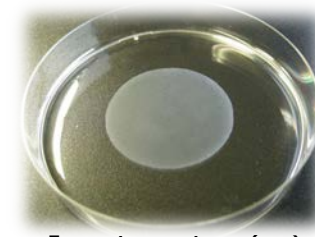
領域	製品		地域	ローンチ
CV	遠心ポンプ装置		亜	
再生	ハートシート	★	日	済み
D&D	皮内投与デバイス	★	日	
	癒着防止材	★	日	
DM	血糖計 (フィットスマイル)		中	
血液	自動製剤化システム	★	日	



PTAバルーン3品種
日米欧(Q1)



DES「Ultimaster」
フランス(Q1)



「ハートシート」(日)

16年度為替の影響：売上・営業利益への影響

(億円)

通貨別	為替の変動 (円) FY15Q1~FY16予想レート				FY16計画	円高時	売上への 影響	営業利益への 影響
	FY15Q1	Q2	Q3	Q4				
USD	121	122	121	115	110	100	-98	+16
EUR	134	136	133	127	125	110	-81	-47
人民元	19.6	19.5	19.0	17.6	17.0	14.8	-25	-11
その他 (アジア・中南米等)	3.7	3.5	3.4	3.2	3.1	2.8	-55	-33
合計	期初ガイダンスへの追加影響 ⇒						-259	-75

例) タイ・パーツ

16年度為替の影響：営業外為替差損と今後の対応

■円高の影響で連結で差損(－55億円)発生

- USD FY15末：113.0円 ⇒ FY16Q1末：103.0円 －46億円
- 人民元 FY15末：17.4円 ⇒ FY16Q1末：15.5円 －5億円
- EUR FY15末：128.0円 ⇒ FY16Q1末：114.0円 －3億円
- その他通貨の影響は軽微

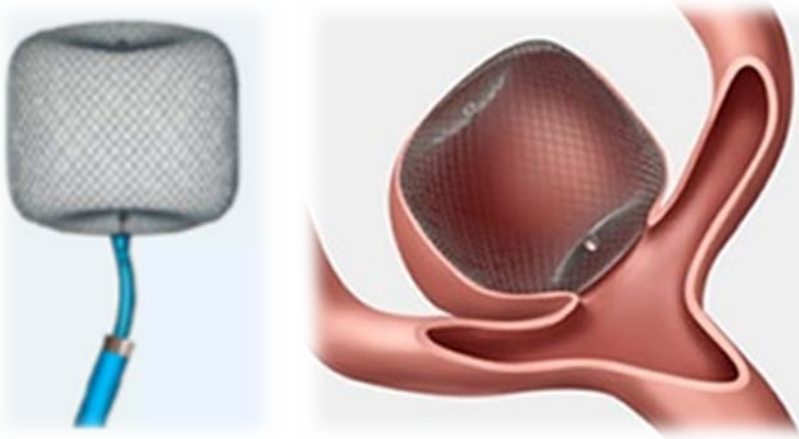
■米ドル建て資産を圧縮(FY15末\$600M⇒\$90M)

- Sequent Medical社買収による、ドルポジションの圧縮(7月)
- 海外拠点の資金を活用してグループ内サイトの短縮(Q1)
- 本社からのグループ内ファイナンスを資本注入に切り替え(Q1)

⇒Q2末時点で100円/USD、110円/EURの場合、追加差損は－9億円

Sequent Medical社の買収

■新・脳動脈瘤塞栓デバイス「WEB」



- 買収金額：最大400億円
- 市場を変える新技術
- 数年後の売上規模100億円

■FY16業績予想への影響（暫定）

（億円）

	影響額
売上高	+ 8
営業利益	- 36
純利益	- 43

- FY16は8月より連結
- 現在PPA作業中

参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	128 (+13%)	509(+11%)	167 (+10%)	214(+11%)	68(+13%)	60(+16%)	637(+12%)
うちカテーテル※	99 (+17%)	409(+13%)	136(+11%)	159 (+14%)	64(+12%)	50(+17%)	508(+14%)
ホスピタル	301 (-0%)	83 (+2%)	21 (-10%)	18 (+3%)	5 (+5%)	40 (+8%)	384 (+0%)
血液システム	25 (-0%)	199 (-3%)	60 (+5%)	97 (-6%)	11 (-3%)	31 (-9%)	224 (-3%)
合計	455 (+3%)	791(+6%)	247 (+7%)	329(+5%)	84 (+10%)	130 (+7%)	1245 (+5%)

※ニューロバスキュラー事業含む

() 内は為替影響除く対前年同期伸長率

販管費

(億円)

	15年度Q1	16年度Q1	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	191	181	-10	- 5%	+5%
販促費	41	38	-3	- 6%	+3%
物流費	28	28	+0	+ 0%	+5%
償却費	69	62	-7	- 10%	+0%
その他	88	94	+6	+ 5%	+13%
一般管理費計	417 (32.5%)	403 (32.3%)	-14	- 3%	+6%
研究開発費	79 (6.1%)	81 (6.5%)	+2	+3%	+10%
販管費合計	496 (38.6%)	484 (38.8%)	-12	- 2%	+6%

() 内は対売上高%

四半期の動き

(億円)

	15年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	16年度Q1 (4-6月)
売上高	1,287	1,305	1,368	1,290	1,245
粗利益	690 (53.7%)	704 (53.9%)	753 (55.0%)	703 (54.4%)	698 (56.0%)
販管費	417 (32.5%)	427 (32.7%)	429 (31.3%)	428 (33.1%)	403 (32.3%)
開発費	79 (6.1%)	80 (6.1%)	74 (5.4%)	99 (7.7%)	81 (6.5%)
営業利益	194 (15.1%)	197 (15.1%)	250 (18.3%)	176 (13.6%)	214 (17.2%)
のれん等償却 除く営業利益	245 (19.1%)	248 (19.0%)	301 (22.0%)	225 (17.4%)	259 (20.8%)

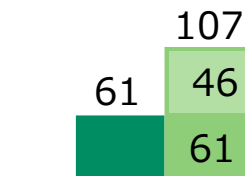
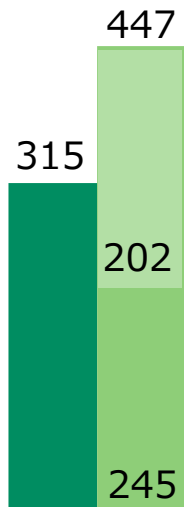
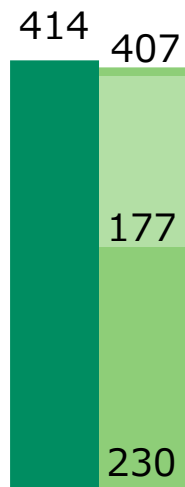
四半期	USD	121円	122円	121円	115円	108円
平均レート	EUR	134円	136円	133円	127円	122円

設備投資と研究開発費

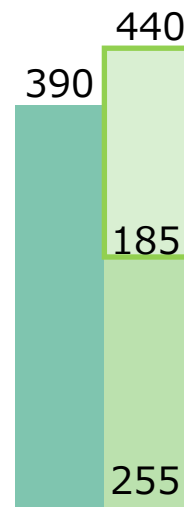
(億円)



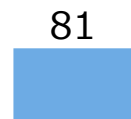
のれん・無形償却費



設備投資は建設仮勘定計上ベース



- 設備投資はFY13でピークアウト
- 設備投資は償却費の水準に落ち着く方向へ



- 主に北米にてカテーテル・ニューロの開発活動を促進

13年度

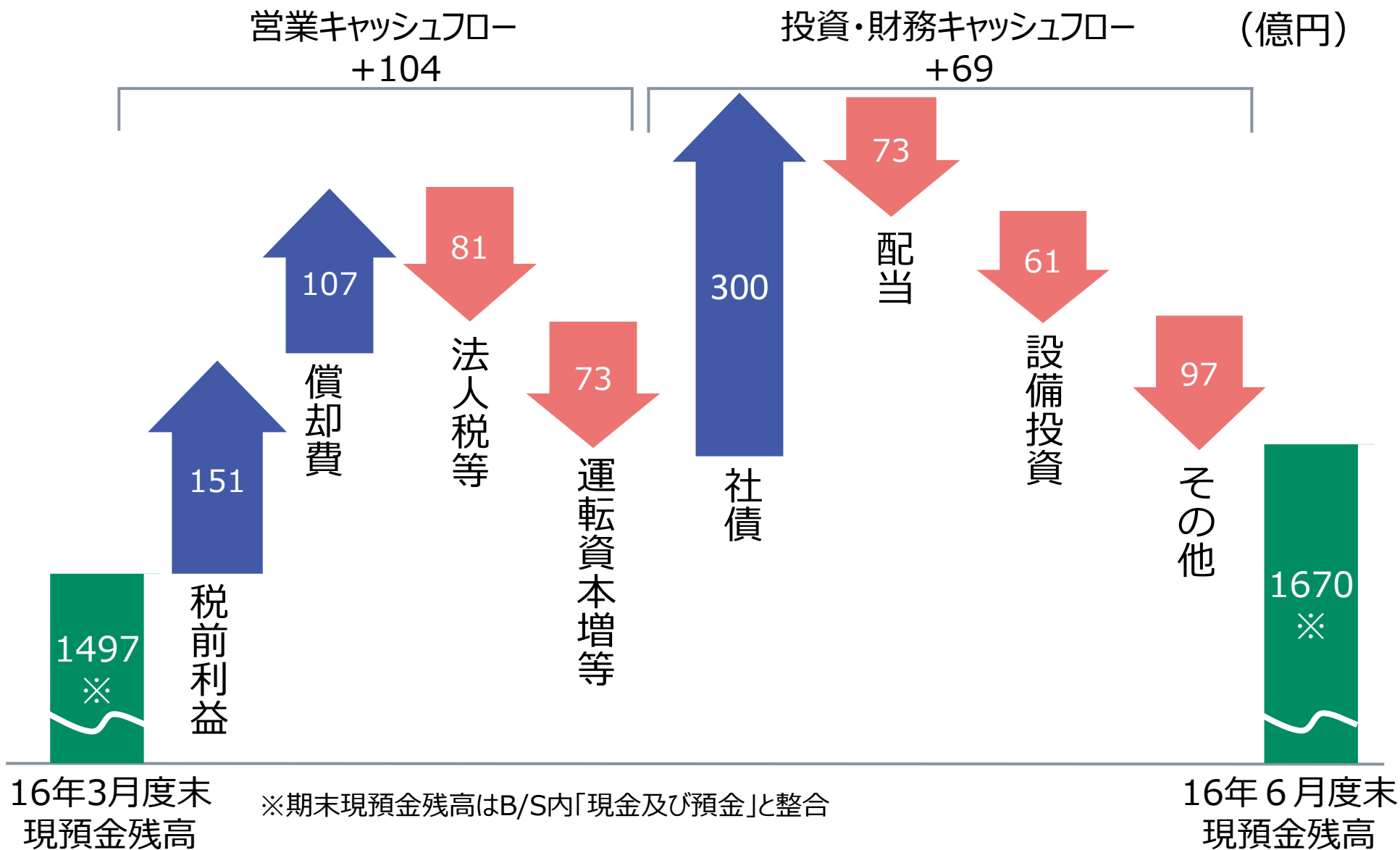
14年度

15年度

16年度Q1

16年度予想

キャッシュフロー



為替感応度

(億円)

	USD		EUR
	のれん等償却 除く	のれん等償却 含む	
売上高	14	14	5
営業利益	0	-2	3

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。